

京大サイクロトロン 秘密に迫れ

「原爆開発につながる」として終戦直後に連合軍総司令部（GHQ）に壊された京都帝国大（京大）の円形加速器「サイクロトロン」について、当時の関係者や部品を保管していた研究者を訪ね、取材したドキュメンタリー「よみがえる京大サイクロトロン」が完成した。京大付属図書館（京都市左京区）で三月二十六日に上映会がある。



京都帝国大のサイクロトロンについて竹腰秀邦京大名誉教授（中央）らを取材する中尾麻伊香さん（2006年2月、宇治市・京大化学研究所）＝塩瀬隆之京大助教提供

東大研究生が取材

サイクロトロンは旧日ユニケーションを学んで本軍が原爆開発を依頼していた東京大の研究生中尾た京大理学部荒勝文策麻伊香さんが取材した。研究室で開発され、完成前に終戦を迎えた。理化学研究所などのサイクロトロンとともに戦後に破壊されたが、磁極として使われた鉄製円盤「ポール・チップ」を京大の研究者が保管、京大総合博物館に預けられた。

このポール・チップについて、京大で科学コミ

関連の研究者訪ね ドキュメンタリー

ドキュメンタリー製作を進めた塩瀬隆之京大助教は「研究室でGHQに説明しているときの笑顔としか見えない研究者の表情が印象的だった。研究者が社会とどうかかわるか、社会はどのように科学を迎え入れるのか、映像から考えてほしい」と話す。

上映会（第一部）は午後二時からで、入場無料。定員は申し込み先着百人。午後五時からカフェ進々堂で竹腰名誉教授らを招いて懇親会（第二部）も開く。定員四十人。名前、連絡先、所属、参加希望（一部、二部、両方）を書いて、塩瀬助教の電子メール（sciwr108-cyc@symlab.sys.i.kyoto-u.ac.jp）か、ファクス075（753）5042へ申し込む。